

1 学校として目指す授業

児童が様々なもの（既習事項・他教科・生活経験・他者の考えなど）を生かして、自分の考えを深めたり、表現したりできる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析

- ・学力調査に関する本校の平均正答率は、どの教科も全国や東京都の平均正答率よりも高い結果となった。評価の観点について、突出して全国平均より高いものはなかったが、問題別に見ていくと、知識・技能を問う問題が高い正答率であった。
- ・平均正答率が高い一方で、無回答率が全国平均より高い問題も見られた。個に応じた授業を充実させることが必要である。

生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析

- ・自己肯定感や将来の夢、規則的な生活に関する質問に対して概ね肯定的な意見であることから、前向きに生活できていることが分かる。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「協力しながら課題解決に取り組んでいる」の質問について、肯定的な回答が全国平均の10%以上高いのに対して、「学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」については全国平均の3%高いにとどまっている。総合的な学習の時間や特別活動の積極的な活用、教科横断的な指導の充実が必要である。

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

- ・教科に関するアンケート（学校評価）・ワークシート等→教科に関する興味関心は高く、楽しく授業を受けている。しかし、適用問題やワークテストの結果に反映されず、知識の定着に結び付いていないことも見られるため、学習実態に応じた柔軟かつ丁寧な指導が必要である。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・全体的に学習意欲は高く、概ね基本的な知識・技能は身に付いているが、一斉指導だけでは理解に時間がかかり、支援を要する児童が全学年に複数名いる。
- ・自分の考えを文章で表現したり、他の手段で他者に伝える力など、思考力や判断力、表現力を必要とする場面に課題があり、時間を要する児童がいる。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- ・全体での共有だけでなく、ペアやグループでの対話活動を効果的に取り入れ、自分の考えに自信をもって表現できるようにする。
- ・教科担任制による専門性の高い授業を行い、評価をこまめに行うことで児童の個々の状況を判断し、個に応じた指導を充実させる。
- ・問題解決型の学習を取り入れ、自ら考え主体的に取り組む機会を増やす。
- ・ICT機器を活用し、児童の主体的に学習に取り組む態度を養う授業を展開する。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・ペア学習を取り入れ、学び合う学習を取り入れる。 ・読書に親しみ、各領域の基礎基本の定着を図る。 ・自分の考えをもち、言葉で表すことができるようにする。				・児童の学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した教材提示を行い、共有や習熟の場面でもタブレット端末端末の機能を活用する。				・身近な話題を取り上げることや、体験活動を行うこと、タブレット端末を活用することを通して、自身に関する問題として学習を捉えられるようにし、進んで自分の考えを表現できるようにする。		・歌や楽器の演奏を通して、音楽の楽しさを味わわせる。		・様々な学習グループで材料や方法などについて話し合う活動を題材ごとに設け、自分の見方や感じ方を広げるようにする。				・ICT機器などを活用し、手本や練習方法を学べるようにする。 ・振り返りの時間を設定しながら、一定の運動量の確保を目指す。				・デジタル教科書の挿絵や動画を活用し、場面や登場人物の心情をイメージしやすくする。必要に応じて役割演技などを取り入れ、意見を言いやすくする。	
中学年	・ペアや小グループでの交流学習を取り入れる。 ・様々なものを関連付けて自分の考えを深めたり、言葉や図などで表したりできるようにする。		・問いを自分事として捉えられるような資料提示を行う。 ・調べて気付いたことや分かったことを発表したり、話し合いの機会を設定したりして、考えを整理して表現できるようにする。		・デジタル教科書を活用した教材提示を行い、数や形について可視化できるようにする。 ・対話活動を中心とした考えを共有できる場面で習熟度別に応じて設定し、知識・理解の定着を図っていく。		・自ら問題を見いだすことや、生活経験に結び付けて予想することができるように、タブレット端末を用いた教材提示を行ったり、発問を工夫したりする。				・様々な楽曲を演奏することを通して、曲想や歌詞の内容を感じ取らせる。		・様々な学習グループで材料や方法、自分たちの作品などについて話し合う活動を題材ごとに設け、自分の見方や感じ方を広げるようにする。				・ICT機器などを活用し、手本や練習方法を学べるようにする。 ・友達に思いを伝えることで、上達のための様々な方法があること学ぶ。時間ごとに、振り返りの時間を設定するが、一定の運動量も確保し体力の向上を目指す。				・デジタル教科書の挿絵や動画を活用し、場面や登場人物の心情をイメージしやすくする。 ・スクイメニュークラウドで自分の考えを表明させる。 ・実生活と結び付けた振り返りをさせる。	
高学年	・根拠をもって考えを書いたり、対話により考えをもったり深めたりできるようにする。 ・様々なものを関連付けたり統合したりしながら、様々な方法で表したりできるようにする。		・社会的事象に対して問いを見だし、解決できるような資料の精選や発問の仕方を工夫したり、自由進度学習を取り入れたりする等、主体的に学習に取り組めるようにする。		・デジタル教科書を活用した教材提示を行う。対話活動を中心とした考えを共有できる場面で習熟度別に応じて設定し、知識・理解の定着を図っていく。 ・ICT機器を活用した思考の共有を取り入れていく。		・実験や観察の結果から考察ができるように、結果から共通点や相違点を気付かせる工夫したりする。 ・自分の考えをまとめて表現できるようにする。				・楽曲の演奏の中に自分の思い・表現を込める経験を重ねさせる。		・様々な学習グループで材料や方法、自分たちの作品や著名な芸術作品などについて話し合う活動を題材ごとに設け、自分の見方や感じ方を深めるようにする。		・ペア学習やグループでの話し合い等を意図的に設定し、自分の考えを深められるようにする。問題解決的な学習を取り入れ、学習への意欲化を図る。		・毎時間のテーマや達成課題を明示し、その課題に対して個々の練習方法や意識ポイントを考えさせる。できる限り考えたり話し合ったりする時間を設け、思考しながら実践する機会を大切に。ICTを活用した学習では一定の運動量も確保し、体力の向上を目指す。		・タブレット端末を活用して、外国語によるコミュニケーションに対する興味・関心を高める。 ・Think-Pair-Share(個人→ペア→集団)を始めとする学習形態の工夫により、「話すこと」に対する児童の自信を高める。		・挿絵をスライドショーで見せる。 ・teams等を使って多面的に考えられるようにする。 ・スクイメニュークラウドでポジショニングをマークさせる。	